平成20年度第１回北信越ブロッククラブミーティング２００８開催報告

平成２０年６月１５日（日）石川県（いしかわ総合スポーツセンター）にて第１回北信越ブロッククラブミーティング２００８が開催された。４県（新潟県・石川県・福井県・長野県：富山県は育成指定クラブなし）より１０クラブ（継続：３クラブ、新規６クラブ）が集まった。※滋賀県、京都府から２クラブが参加した。参加者は、育成指定クラブ２１名を含め、合計４７名であった。

（財）日本体育協会クラブ育成課　根本課長より事業の取り組み、育成状況の説明があり、グループディスカッションが始まった。今回は、地域の課題を理解し、クラブの設立の理念を確立することがとても重要なこととととらえ、参加者相互の思いを共有し、今後のクラブ設立のストーリーを描いてもらうことをテーマに開催した。

＜グループディスカッション１＞

自分のクラブが、今何を課題としているのかを整理するところからはじめた。まず（財）日本体育協会から発行された『総合型クラブ創設ガイド』（Ｈ２０．３発行）のクラブ設立チェックシートで現在のクラブ状況を確認することから取り組んだ。何に悩み、課題としているのかということを整理したうえで、コーディネーターである西原地方企画班員より、クラブが現在抱えている課題、クリアしたい点などを何でもいいから出してみようと、少人数によるグループで思う存分出し合った。意見をまとめると以下のような項目にまとめられる。

・行政が動いてくれない
・既存団体へのメリットの提供をどうしたらいいか
・総合型クラブが理解されない
・施設の利用状況、使用料金
・既存団体との連携を図りたい
・中心となる人材がいない
・スタッフ確保
・事務局体制
・方向付けの検討が必要
・プログラム内容（高齢者・子ども）
・広報活動（認知度アップの方法は何）
・温度差がでてきている
・必要性への理解不足
・メリットを見出せない
・対象が広がらない
・謝金の設定

総合型クラブのアプローチとして、どうしたら行政は動いてくれるのだろうか。市町村合併により総合型の認知度も低く、アピールする方法はどのようなものがいいのだろうか。というクラブもあれば、行政からの支援もなくゼロからのスタートに、何から取り組んでいいのかわからないといったクラブもあった。

育成指定クラブから設立した３つのクラブの関係者よりクラブ運営をとおしての素晴らしさ、クラブの課題等をエネルギーに変えられる、変えられたという状況をお話していただいた。

「三条市総合型地域スポーツクラブりんぐる」（新潟県：Ｈ１８・１９年度育成指定クラブ）の、石月通彦氏（理事長）、神林孝人氏（財務部会長）からは、クラブはお金がなくてはならない。必要なこと削減できることを見直し運営をしていかなくてはならない。しかし、運営しているとクラブ員からの苦情、提案もある。でもそれはしっかり聴かなくてはならない。対応できることはきちんと対応し、取り組んでいることに対して対価はしっかり払うことが必要だと思うと話された。事業のジュニアプログラムについては、新潟医療福祉大学、新潟経営大学、新潟大学と連携し、プログラムの提供を依頼している。

「ありがとう」の言葉は明日への継続の言葉であり、クラブを設立してよかったなと思えるので、また頑張れますと話した。ＣＳ（＝顧客満足）を考え、クラブ運営をしていることが印象的であった。

「ＮＰＯ法人おおしまスポーツクラブ」（富山県：Ｈ１６・１７育成指定クラブ）からは、窪田潤浩氏（理事長、広報部長）が発表した。クラブへの関わりは、町・体育指導員での研修会から始まり、クラブマネジャー養成講習会を受講し、総合型地域スポーツクラブを学んだところからであった。「人生は縁」ということを感じた頃からクラブと私の歩みが始まり、クラブの仕事をする上で趣味が見つかったと話した。その趣味というのは、カメラ撮影であり、広報担当になり、クラブ活動の様子を撮っているうちに積極的にかかわるようになった。誰かのためにというよりは、自分の楽しみが膨らんできたという状況である。撮った写真は、活動施設に掲示したり、ＨＰに掲載することによって見てもらえる機会もあるので、役にたっているのかなと感じている。徐々に楽しみ方も変わり、自分の中でポスター作りを通してレベルアップしていることを実感でき、活動していて楽しいと笑顔で話された。

また、クラブスタッフとなると自分自身が実践から離れてしまう人が多い。そうであれば、自分が活動期できる日に教室を開講し、体を動かしていると紹介された。

３つめは、「高松スポーツクラブ」（石川県：Ｈ１９特別支援団体）から、尾塩苑氏（クラブマネジャー）が発表した。クラブは、３人のお母さんの声、活動時間が遅い、子どもがやりたい種目がない等の不満、要望から始まり半年で設立した。半年で立ち上げられたのは、スポーツをしたい人のニーズに応えられたこと、学校に何回も足を運び理解を得たこと、思いをすぐに行動に移してみたことなど、ポイントとして紹介があった。活動教室の事例を交え、初めは少人数の参加であったが継続していれば参加者が増えてきた。高松スポーツクラブは販売志向ではなく、マーケティング志向で会員や保護者の声を大切に聞き、事業展開をしていくことや、質の高い指導を目指したいとクラブの今後の課題と方向性を話した。一番の失敗は、何も始めないこと、難しく考えないでまずやってみること。１ミリ前へ進むには出来ることからやりましょうと参加者に伝えた。

＜グループディスカッション２＞

事例発表後には、もう一度グループディスカッションを行い３つのクラブの実際の取りくみ、想いな

どを聞き、今抱えている課題や迷いといったことに対し、取り組むこと明日からでもすべきことを話し合った。

１．組織との関わり
・顔を合わせて情報交換する場の設定
・既存団体へのメリット提供
・施設共有
・福祉、環境分野とも事業をやってみよう
・学校行事、地域行事との連携
・理解の共有
・隣接村との関係を図る
２．人材
・女性を取り入れる
・仲間を集める
・指導者派遣
３．クラブ内容
・部会の設置
・教室の充実（種目を増やす）
・会員のニーズ調査をはかろう
・事務局体制を整えたい
・会員ニーズの把握
・専門委員会の設置
４．財源確保
・スポンサーを募ろう

　できることをやってみよう。欲を出さずに芽を育てる。中途半端な取り組みではなく、クラブ活動が認めてもらえるよう実績をつくり、継続ある活動を心がけていきたいという意見がでた。総合型クラブへの理解が得られていない団体には、協力してほしいという程度でも総合型クラブに問い合わせをくれるようにしたいともあった。

＜まとめ＞
　グループワークでの意見、事例を聞き、クラブからは、自分たちだけが悩んでいるのかと思っていたことが、みなさんも悩んでいて、このような機会があってよかったとあった。地方企画班より、課題は現場にある。とにかく現場をみるということが大事である。ノウハウに走らないようにとアドバイスがあった。一人ではできないことも仲間がいればできる。一緒にやったらいい。まずは、想いをヒトに伝えよう。誰かのためにというよりは、自分がやりたいから、楽しいからという気持ちがあってもいいのではないかということ。クラブ員にワクワクを感じてもらうと同時に自らもワクワク感をもつこともいいと思う。さらに、出来ること出来ないことをしっかり分ける必要もある。やりたいこと、やってはいけないことの判断も重要ではあるが、まずはやってみよう！というまとめで終わった。

（報告：北信越ブロック地方企画班員　白倉　香理）